



2025年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年7月15日

上場会社名 株式会社鉄人化ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2404 URL http://www.tetsujin.ne.jp
 代表者(役職名)代表取締役社長 (氏名) 根来 拓也
 問合せ先責任者(役職名)常務取締役 管理本部長 (氏名) 浦野 敏男 (TEL) 03-3793-5117
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年8月期第3四半期の連結業績(2024年9月1日~2025年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期第3四半期	6,077	14.8	220	244.6	260	—	302	—
2024年8月期第3四半期	5,292	9.2	63	—	14	—	△14	—

(注) 包括利益 2025年8月期第3四半期 303百万円(—%) 2024年8月期第3四半期 △21百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年8月期第3四半期	22.94	22.83
2024年8月期第3四半期	△1.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年8月期第3四半期	4,435	559	12.3
2024年8月期	4,326	223	4.9

(参考) 自己資本 2025年8月期第3四半期 545百万円 2024年8月期 211百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年8月期	—	0.00	—	—	—
2025年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年8月期の連結業績予想(2024年9月1日~2025年8月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,030	13.6	207	198.7	236	546.2	150	—	11.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年8月期3Q	13,717,362株	2024年8月期	13,647,362株
2025年8月期3Q	457,300株	2024年8月期	459,100株
2025年8月期3Q	13,196,441株	2024年8月期3Q	13,186,149株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は :
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、個人消費の増加やインバウンド需要の回復を背景に景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、原材料価格の高騰や食料品・日用品・サービス分野における物価上昇により、インフレ傾向が継続しており、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが展開する各事業においては、個人需要の持ち直しが見られるものの、インフレ基調に伴うテナント更新時の賃料上昇、人手不足による人件費・求人費の増加、原材料費及び一部の事業における物流費の上昇など、事業運営コストが増加傾向となったことで、厳しい経営環境となっております。

このような中、当社グループは採算性を重視した経営を推進しており、収益性の高い事業への選択的投資と管理コストの効率化を実施しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高6,077百万円（前年同四半期比14.8%増）、経常利益260百万円（前年同四半期経常利益14百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益302百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失14百万円）となりました。セグメントごとの業績は次のとおりです。

(カラオケルーム運営事業)

当第3四半期連結累計期間におけるカラオケルーム運営事業の売上高は2,942百万円（前年同四半期比1.6%増）、セグメント利益は492百万円（前年同四半期比36.1%増）となりました。

カラオケ需要は、二次会利用や深夜時間帯利用がコロナ禍前と比較して引続き減少しておりますが、個人利用、ビジネス利用は回復傾向となっております。運営面では、効率的な人員体制と運営コストの削減に注力し、収益性の改善に取り組みました。

また、当事業で展開しておりますアニメ・ゲーム等コンテンツとのコラボレーション企画に特化したコラボ完全特化型カラオケ店舗「カラオケの鉄人コラボミックス」は、比較的好調な業績で推移していることから、引続き、地方都市を中心に新店を計画してまいります。

比較可能な既存店※は32店舗で売上高は前年同四半期比99.5%となりました。

(飲食事業)

当第3四半期連結累計期間における飲食事業の売上高は1,491百万円（前年同四半期比63.8%増）、セグメント利益は108百万円（前年同四半期比146.8%増）となりました。

飲食事業は、子会社である株式会社直久が運営する「直久」をブランドとしたラーメン店舗（直営7店舗、FC4店舗、業務受託1店舗）と焼き鳥専門店「鳥竹」を主力とするほか、フランチャイジー店舗として「赤から」3店舗、「京都勝牛」、「福包酒場」、「かにざんまい」を運営しております。

当事業においては、日常的な外食需要の回復とインバウンド需要により、堅調な業績推移となりました。

また、ラーメン業態においては、工場生産の材料をOEM化することで生産体制の改革に取り組みました。

比較可能な直営・既存店※は10店舗・1事業所で売上高は前年同四半期比106.1%となりました。

(美容事業)

当第3四半期連結累計期間における美容事業の売上高は1,368百万円（前年同四半期比5.1%増）、セグメント利益は30百万円（前年同四半期比62.3%減）となりました。

美容事業は、中京エリアを商圏とする株式会社Rich to（9店舗）と首都圏エリアを商圏とするピアンカグループ（49店舗）により運営しております。

当事業では、スタイリストの採用（新卒・中途）・教育を重点戦略として進めており、2025年4月新卒者として前期を上回る100名の採用を実施致しました。

営業面では、集客が増加した店舗が多数ある一方で、減少した店舗も多く、全体としては厳しい営業状況となりました。

当事業の特性であるスタイリストの高い流動性への対応や単価向上に寄与する施術技術の向上への対応を強化し、利益率の改善に取り組んでおります。また、業績不振の3店舗を閉店し、収益性の改善に取り組みました。

比較可能な既存店※は49店舗で売上高は前年同四半期比99.3%となりました。

(メディア・コンテンツ企画)

当第3四半期連結累計期間におけるメディア・コンテンツ企画の売上高は44百万円（前年同四半期比11.9%減）、セグメント利益は36百万円（前年同四半期比14.6%減）となりました。

「カラオケの鉄人モバイル」サイトを中心に運営を行っておりますが、フィーチャーフォンからスマートフォンへの乗換えが進み減収・減益となっております。

(その他)

当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は231百万円（前年同四半期比71.8%増）、セグメント損失は79百万円（前年同四半期セグメント損失94百万円）となりました。

2022年3月より新事業の試みとして開始したゲームコミュニケーション事業（通称e-sports事業）に加え、当期よりダンス・ヨガ・トレーニング等での利用を目的としたレンタルスペース事業を開始し、積極的な拠点拡大に取り組んでおります。

※ 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比較して109百万円増加し、4,435百万円となりました。流動資産は1,706百万円となり128百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金が204百万円、売掛金が32百万円、商品及び製品が7百万円増加し、未収還付消費税が81百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は2,728百万円となり19百万円減少いたしました。主な要因は、のれんが6百万円、繰延税金資産が52百万円、保険積立金が9百万円、差入保証金が11百万円増加し、建物及び構築物をはじめとした有形固定資産が105百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比較して227百万円減少し、3,875百万円となりました。流動負債は1,723百万円となり361百万円減少いたしました。主な要因は、1年内返済予定の長期借入金が11百万円、資産除去債務が4百万円増加し、未払消費税等が68百万円、短期借入金が322百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は2,152百万円となり134百万円増加いたしました。主な要因は、長期借入金が133百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比較して336百万円増加し、559百万円となりました。主な要因は、第14回新株予約権行使等により資本金および資本剰余金がそれぞれ15百万円、当第3四半期純利益による利益剰余金302百万円の増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

国内の経済活動が正常化したことで全事業において黒字化が見込まれる状況となっておりますが、慢性的な人手不足、物価上昇による節約志向や設備資材の高騰など、店舗運営事業において厳しい経営環境が続くことが見込まれます。

連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間における業績を踏まえ、第4四半期会計期間における各事業の状況並びに先行的な取り組みを考慮した結果、通期の連結業績予想を修正することといたしました。

詳細については、2025年7月15日公表の「特別利益の計上と業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

※当該業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により実際の業績はこれと異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	738,605	943,399
売掛金	330,236	362,474
商品及び製品	40,082	48,045
原材料及び貯蔵品	90,568	71,444
その他	380,982	285,830
貸倒引当金	△2,974	△4,828
流動資産合計	1,577,500	1,706,365
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,026,151	898,569
工具、器具及び備品（純額）	85,356	91,556
その他（純額）	360,670	376,109
有形固定資産合計	1,472,178	1,366,235
無形固定資産		
のれん	66,839	73,567
その他	14,391	18,437
無形固定資産合計	81,230	92,005
投資その他の資産		
差入保証金	1,173,129	1,185,061
その他	25,500	88,967
貸倒引当金	△3,290	△3,291
投資その他の資産合計	1,195,339	1,270,738
固定資産合計	2,748,748	2,728,978
資産合計	4,326,248	4,435,344

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	137,915	136,107
短期借入金	600,000	277,800
1年内返済予定の長期借入金	519,028	530,964
未払費用	466,421	527,208
未払法人税等	28,063	37,709
前受金	7,916	7,845
資産除去債務	—	4,213
賞与引当金	25,936	14,204
ポイント引当金	18,652	16,922
その他	281,050	170,179
流動負債合計	2,084,984	1,723,155
固定負債		
長期借入金	1,505,615	1,639,509
退職給付引当金	—	27,432
資産除去債務	419,560	393,163
その他	92,563	92,174
固定負債合計	2,017,738	2,152,280
負債合計	4,102,723	3,875,435
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	65,103
資本剰余金	151,146	166,339
利益剰余金	189,797	492,503
自己株式	△170,067	△169,400
株主資本合計	220,876	554,545
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△9,541	△8,959
その他の包括利益累計額合計	△9,541	△8,959
新株予約権	12,190	14,322
純資産合計	223,525	559,908
負債純資産合計	4,326,248	4,435,344

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
売上高	5,292,512	6,077,535
売上原価	4,543,685	5,140,752
売上総利益	748,826	936,782
販売費及び一般管理費	684,908	716,505
営業利益	63,918	220,276
営業外収益		
受取利息	194	276
受取保険金	6,099	1,735
助成金収入	22,441	52,903
為替差益	5,686	—
その他	13,224	36,342
営業外収益合計	47,645	91,258
営業外費用		
支払利息	24,029	32,650
為替差損	—	518
支払手数料	68,554	6,611
その他	4,528	10,946
営業外費用合計	97,111	50,727
経常利益	14,451	260,808
特別利益		
固定資産売却益	—	31,377
資産除去債務戻入益	258	8,050
新株予約権戻入益	1,042	117
固定資産権利変換益	—	82,228
移転補償金	—	267,015
特別利益合計	1,301	388,788
特別損失		
固定資産除売却損	1,430	1,646
店舗閉鎖損失	1,506	2,334
減損損失	1,925	223,874
固定資産圧縮損	—	81,636
棚卸資産評価損	—	10,283
特別損失合計	4,862	319,774
税金等調整前四半期純利益	10,890	329,822
法人税等	25,811	27,116
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△14,921	302,705
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△14,921	302,705

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△14,921	302,705
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△6,378	582
その他の包括利益合計	△6,378	582
四半期包括利益	△21,299	303,287
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△21,299	303,287
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は2024年12月5日に第14回新株予約権を発行しております。当第3四半期連結累計期間において第14回新株予約権行使等により資本金および資本剰余金がそれぞれ15,103千円増加しました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が65,103千円、資本剰余金が166,275千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当社は当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	メディ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	2,895,207	910,264	1,302,082	50,388	5,157,942	134,569	5,292,512	-	5,292,512
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	2,895,207	910,264	1,302,082	50,388	5,157,942	134,569	5,292,512	-	5,292,512
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	361,883	44,097	79,874	42,985	528,841	△94,410	434,430	△370,511	63,918

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△370,511千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△370,511千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「美容事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、1,925千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	メディ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	2,942,659	1,491,031	1,368,248	44,379	5,846,319	231,215	6,077,535	-	6,077,535
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	2,942,659	1,491,031	1,368,248	44,379	5,846,319	231,215	6,077,535	-	6,077,535
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	492,411	108,841	30,111	36,718	668,083	△79,571	588,512	△368,235	220,276

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△368,235千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△368,235千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「カラオケルーム運営事業」「飲食事業」「美容事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、「カラオケルーム運営事業」177,033千円、「飲食事業」38,869千円、「美容事業」7,971千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食事業」セグメントにおいて、2024年9月30日付で株式会社鳥竹の株式を取得したことに伴い、中間連結会計期間より連結の範囲に含めております。このことにより、のれんが34,127千円発生しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
減価償却費	112,537千円	108,555千円
のれんの償却額	22,414千円	27,398千円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、カラオケルーム運営事業を主たる事業としており、一般のカラオケルームでの楽曲・飲食サービス提供の他、アニメ作品等とコラボレーションしたカラオケルーム運営をしております。その他、ラーメン店を主体とした飲食事業、まつ毛エクステ&ネイルを主体とした美容事業、着メロ等の配信を行うメディア・コンテンツ企画事業を事業ドメインとして運営しております。

前第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

(単位：千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	カラオケルーム売上	2,645,185	50.0%
	コラボルーム売上	250,023	4.7%
飲食事業	店舗販売	786,889	14.9%
	卸売	50,603	1.0%
	F C	72,772	1.4%
美容事業	施術サービス	1,220,382	23.1%
	物販	80,770	1.5%
	卸売	931	0.0%
メディア・コンテンツ企画事業		50,388	1.0%
その他		134,570	2.5%
顧客との契約から生じる収益		5,292,512	100.0%
その他の収益		—	—%
外部顧客への売上高		5,292,512	100.0%

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

(単位：千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	カラオケルーム売上	2,488,181	40.9%
	コラボルーム売上	454,478	7.5%
飲食事業	店舗販売	1,389,516	22.9%
	卸売	36,637	0.6%
	F C	64,878	1.1%
美容事業	施術サービス	1,281,644	21.1%
	物販	82,762	1.4%
	卸売	3,842	0.1%
メディア・コンテンツ企画事業		44,380	0.7%
その他		231,216	3.8%
顧客との契約から生じる収益		6,077,535	100.0%
その他の収益		—	—%
外部顧客への売上高		6,077,535	100.0%

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。